



学校だより

令和6年9月25日

東京都立石神井特別支援学校
校長 中島 由美子

少しずつ秋の気配が感じられる頃となりました。来週からは個人面談週間です。前期の学習の到達状況と後期の計画について、保護者の皆さまと意見交換しながら子供たちの成長につなげていきます。初めての場所に行ったり初めての体験をしたり、経験のないことや少し苦手なことにも一人ではないから、友達がいるから、大人の支えがあるから、少しずつ取り組める、それが私たちの学校です。その中で子供たちは、いろいろな人と関わったり好きなことや得意なことを増やしてきました。今年度の後半も子供たちの一層の成長に期待しています。

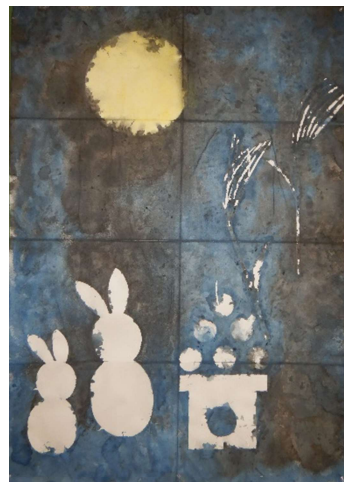
今号では進路指導主任から、自立と社会参加する力の育成において日頃の教育活動で大切にしていることをお伝えします。本校では学校だよりの他にも学年だより、保健だより、給食だより、進路だより、図書だよりを発行していますので、あわせて御覧ください。

全校の授業で取り組んでいる「服のチカラプロジェクト」においては、たくさんの子供服を御提供いただき感謝申し上げます。これから児童・生徒が共同作業で、衣類別に仕分け、きれいにたたんで梱包し、企業と連携して必要としている国や地域の方にお届けします。

さて、「芸術の秋」と題して石特アートギャラリーの一部を御紹介します。御来校の際には、校内の展示作品などもどうぞ御覧くださいますようお願いいたします。



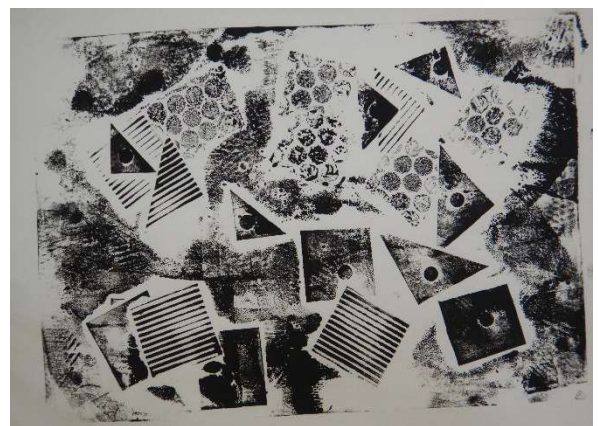
小学部6年 スプレーアート



中学部2年 花を描こう



中学部3年 アボリジニアート



小学部5年 版画



■「自己選択」「自己決定」について ～「選ぶ」「決める」ことの大切さ～

特別支援教育において、子供たちの将来に向けた「自立」と「社会参加」を目指すことは、私たち教員が日々の教育活動を行う際の基礎になっています。この「自立」と「社会参加」を目指す上で身に付けておきたい力は様々ありますが、日々の教育活動の中で私自身が特に大切だと感じていることは、「自己選択」「自己決定」のできる力です。

「自分で選ぶ、自分で決める」ということができる力は、自分の行動に責任をもつことにつながります。そして「失敗しないためにどうしたらいいか」を考えるようになります。反対に選ぶことや決めることを人任せにしてしまうと、行動の結果に対する因果関係がみえにくくなり、なぜこうなったのか？次はどうしたらよいか？という考えにつながりにくくなります。

私たち教員は、学校の指導の中で子供たちの「選択・決定」については様々な場面で設定し、支援しています。しかし、日々子供たちと過ごす中で子供たちへの理解が深まってくると、子供たちの「選択・決定」の結果について予測できるようになるため、注意していないと決めつけや誘導により、「選択・決定」の機会を取り上げてしまう可能性があります。子供たちは、年齢や成長の度合いによって変化します。過去の経験やデータも大切ですが、子供たちの意思や要求に対しては常に客観性をもって本人の意思をきちんと確認する必要がある、ということを実践の中で感じているところです。

さて、御家庭で子供たちには「選択・決定」の機会がどのくらいあるのでしょうか？保護者の方が毎日仕事や家事に忙しく過ごされている現代社会の生活では、子供たちへ「選択・決定」の機会を与えることが難しい、というケースもあるでしょう。そのような場合には、食後のデザートや2つから1つ選ぶなど、毎日楽しみながら「選択・決定」の機会や場面を設定できると良いでしょう。休日には、近くのスーパーやコンビニエンスストアに買い物に行き好きなもの一つだけ選んで買う、といったことも良い経験になるでしょう。

「自己選択・自己決定」の力は、一朝一夕で身に付くものではありません。また、「自己選択・自己決定」とはいえ、なんでも好き勝手に決めてよいという訳ではありません。必ず、一定の範囲やルールの中で、選択・決定をすることが求められます。学校における教育活動の中では、意識的にそのような機会を設けて子供たちと関わっています。小さいことの積み重ねが、後に大きな力になると期待しています。御家庭でも、できそうな小さなことから、取り組んでみてください。

(進路指導部：富山 博祐)